

艘錦の旗三流はたが、大将やたけ、きり女人なり、其
力量る、海中小投入り、大将蒙古の弟、其外以下、答の者
廿八人、少々の即時、小斬弄云、廿七日、半夜、ぐる程、小異
国の残兵や、皆々引退、蒙古打取、風聞、其説未定也、其
外敵の舟や、七月廿二日、悉退散仕、女やあり、又雖未代、
神明威力、吾国を擁護、給ふ、六月廿六日、九国軍兵合戦、蒙古打負、
神軍有奇瑞、全七月廿二日、蒙古悉退散、たけ、此役の事、天地
根元歴代、皇代紀、日本運上録、日蓮注、禹贊、宗家譜、ちや、
も見え、ちや、應永廿六年、御社小齋奉給、ちや、皇后攝政元
年、ちや、一千二百十九年の後、称光院、天皇の御代、治看、五
年、ちや、當る年、ちや、將軍ハ足利義持公の、御政、與られ、時、
人、ちや、越人、ちや、中、ちや、御世、れ、此、時、皇、国、人、の、謂、ゆ、
右、手、の、互、小、救、ひ、あ、ちや、船、中、小、大、風、悪、浪、小、逢、む、時、ハ、左
合、せ、強、賊、を、防、き、く、故、小、三、韓、を、手、治、給、ひ、且、力、を
の、か、奇、瑞、を、現、異、賊、を、打、破、し、め、給、ひ、皇、国、を、護
坐、る、事、も、辱、く、恐、き、事、小、吾、も、人、も、豈、等、閑、小、聞、
は、給、さ、し、や、ちや、の、賊、を、御、記、小、唐、人、や、紀、給、る、

ハ、冠、小、聞、召、る、の、あ、ちや、小、実、ハ、注、進、状、を、小、言、る、如、く、蒙
古、賊、あ、ちや、あ、ちや、ちや、本、文、ちや、山、背、根、子、ハ、姓、氏、録、小、
天、御、影、命、十、一、世、孫、ちや、あ、ちや、バ、ヤ、ガ、
大、御、神、の、御、裔、小、ちや、ちや、
峽、の、國、小、居、ちや、ちや、誨、給、る、ちや、
小、海、上、五、十、狭、茅、を、

齋祭ら、め給ふ。此御神の、大事小興、
産靈神の御子と、雅産靈神、
木王や申、例もあ、伊勢大御神の又の御名を、大日靈
貴尊と申奉、小對、其御子三女神と、雅日女尊、
奉、命、と、申、由、古、史、傳、小、説、明、さ、れ、
如、く、
給、ひ、
像、大、神、小、幣、を、奉、ら、
加、
小、見、え、
や、申、
三、女、神、の、神、代、
大、御、神、命、を、受、坐、
宗、像、宮、小、鎮

坐は御靈ふく、あつ、鎮坐は、古人も已ふ、如く、専ら
外国防獲の爲たり、あつ、左義抄に載れり、天延二年、宗像宮
大官司、宗像朝臣氏能等、解文小、此宮、從世初之時、已爲、日
本之固、其、奇、異、縁、起、不可勝、計、也、見、和、爾、雅、小、與、津、島、の、吏
を、田、心、姫、命、鎮、坐、于、此、所、者、爲、防、異、賊、故、也、見、社、記、也、あつ、小
く、灼、白、く、今、も、甚、き、靈、德、の、御、座、は、あつ、を、思、ひ、雄、畧、天、皇
の、親、う、韓、國、を、征、む、爲、た、ま、ひ、し、時、三、女、神、の、戒、奉、る、を
往、給、ひ、を、申、詔、つ、る、を、考、合、せ、く、雅、日、女、命、も、三、女、神、を
ら、む、の、申、ひ、を、申、ひ、を、漢、國、も、天、妃、也、靈、威、あ、つ、海、神、有
る、三、人、の、女、子、を、皇、と、丘、文、莊、が、天、妃、廟、碑、ふ、い、ひ、ま、つ、天、妃
の、妹、小、臨、水、夫、人、や、い、よ、を、海、上、の、諸、船、小、皆、祀、る、を、五、雜、俎
小、見、え、たり、此、大、神、の、分、靈、あ、つ、覺、し、き、由、あ、つ、ま、つ、履
仲、天、皇、の、御、代、小、車、持、公、が、筑、紫、小、下、り、大、神、の、神、氏、車、持
部、を、掠、取、り、三、神、宮、中、小、御、形、を、現、し、る、を、天、皇、小、告、奉
り、給、り、れ、ど、ま、れ、を、究、問、も、爲、給、り、を、見、え、り、の、御、崇、小
く、皇、妃、の、俄、小、薨、坐、し、去、り、皇、典、小、見、え、或、物、小、土、記、を、引、く、
藤、原、冬、嗣、公、の、内、舍、人、あ、つ、ま、つ、時、宗、像、大、神、の、小、一、條
の、地、を、買、り、住、む、に、福、子、孫、小、及、ひ、を、我、も、此、辺、小、住、り、
守、護、せ、む、と、宣、ひ、し、を、此、一、條、小、因、り、一、條、築、御、社、に、立、ら、れ、
由、記、せ、り、清、和、天、皇、貞、觀、元、年、二、月、記、小、太、政、大、臣、東、京、一、條

第、ち、り、從、二、位、勳、八、等、田、心、姫、神、湍、津、姫、神、市、井、島、姫、神、小、並
正、二、位、を、授、奉、ら、り、を、見、え、大、鏡、小、藤、原、忠、平、公、の、司、第、に
座、は、宗、像、明、神、の、時、々、御、形、を、現、坐、し、大、臣、の、物、語、一、給、り、
更、と、紀、せ、り、が、御、紀、を、太、政、大、臣、良、房、公、小、冬、嗣、公、の
御、子、忠、平、公、良、房、公、の、御、養、子、基、經、公、の、御、子、小、一、條
第、小、御、坐、せ、れ、共、小、同、社、御、神、を、更、的、然、く、此、御、家、の、今
世、ま、く、甚、榮、え、ま、せ、り、を、思、ふ、小、土、記、を、神、語、に、決、り、浮、た
る、説、ふ、は、あ、つ、是、も、二、件、の、事、小、思、合、し、よ、治、田
へ、和、名、抄、ふ、八、田、部、郎、生、田、や、あ、つ、神、名、帳、小、生、田、神、社、名
神、大、月、次、相、嘗、新、嘗、枕、草、紙、小、社、は、つ、た、の、社、や、見、え、貞、觀
元、年、正、月、後、四、位、上、同、十、年、十、二、月、後、三、位、を、奉、ら、り、攝、津、志
小、生、田、宮、村、廣、前、有、井、曰、堀、原、井、今、近、隣、十、三、村、共、預、祭、祀、齋
神、八、前、咸、在、域、内、や、い、る、を、去、の、地、を、詠、み、歌、に、後、撰、集、小、い
く、度、く、生、田、の、浦、小、立、う、る、浪、小、我、り、身、を、打、め、り、つ、む
古、今、六、帖、小、津、田、の、生、田、の、山、の、い、く、度、く、我、り、た、つ、小
往、き、り、名、を、ら、む、大、和、物、語、小、み、み、り、し、ぬ、我、身、投、り、む、津、田
の、生、田、の、川、八、名、の、み、ち、り、を、皇、を、あ、り、を、始、り、數、知、ら、り、
多、く、海、上、五、十、狹、茅、上、総、國、の、人、を、聞、え、り、通、証、小、古、典、を
引、く、上、海、上、國、造、下、海、上、國、造、共、小、天、穗、日、命、の、後、を、り、を、い
る、小、依、り、後、小、釋、紀、を、見、れ、り、私、紀、小、早、く、雅、日、女、尊

ハ大御神の御子なり。事代主尊も我も御心長田の國ハ。

つゞき祭に給るや。誨給ひけるまは。小葉山媛の妹を。

奉らし。め給るを。長田國も八田部郡も神名帳も長田神

里も御社も貞觀元年正月の記も從四位下を奉る。

社記も村上天皇應和三年七月日此社も雨を祈給る。

祭祀神官大中臣氏家藏保元建久延慶年間國宣建武天正

中施入文等皇典も小太の神齋も長君長我孫見えある。

長媛も長田も由ある。稱も因も大神の御功德も聊

記も出む御父出雲大神の皇御孫命も天下を讓奉る。

せり時我子等百八十神あれや。八重事代主神の御尾前や

たり。杜奉らへ違ふ神ハあり。申給ひける皇孫の大

和國も都を奠め給ふを。神代の時も早く知有定

く皇室の御守神も柱を貢る。中も言代主命の御

魂も宇奈耜社も鎮む給る。古き俗説も大神

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

坐は八柱皇神等ハ天皇命のハも。申さる。神祇官西院も

○神功皇后傳記下卷

坐る。その内も大袖も座の右の夏も。

遠き神代の昔詔や。後ら開過の人も有る。後代も

皇室の御守神や。証の現れも。大和國も高市縣も天武

天皇の大友帝と御合戦あり。時大和國も高市縣も天武

梅や。人も神託あり。我ハ事代主神も。皇御孫命

の御前後も立く。不破も。送る奉る返る。今も御

軍の中も立く。護奉る。宣る。果も。御軍勝利あり

。遂も天皇の御位も即うせ給る。あれ御守神や。御

の現れも。同天皇も大神の土左も鎮坐

は御霊の神刀一口を奉る給ひ同御世十三年土左國も

五十餘万頃の田苑を絶取。伊豆國も縫つぎ給る。夏

あり。御神の別御名を一言主大神も申せ。雄畧

天皇の葛城山も御獵あり。時一言主神も共小獵も出坐

。天皇も御容貌も能似。御自簿も齋く。御後人も相

類く分る。天皇の還幸せり時山を下り。長谷山口も

送奉給る。あやも見ゆ。又伊豆國も三島神社も同神も

。淳和天皇。天長九年五月紀。三島神。伊古奈比。神。二

柱。深谷も塞ぎ。高巖も摧き。二十甲許の地を平造。神宮

二院。此三所を作。給ひ。神異の夏勝。計。給ひ。後。

伊豆國も上言せ。小因。名神も預。給ひ。後。

鎌倉実記云、或物を引く、永万元年九月、兼人時隆の源頼朝
卿の許小来く、詰まら言ふ、三島宮根走湯の神垣、年毎月
毎の法樂、三年小至る、先の名月、小三島の新造の籠屋、
通夜、侍り、宝殿の方、ふけたかき、撓音の聞えたる
ふ、巫に問む、はる事の候、朽たる、衆屋の天井を、修理せ
古絃一面有る、故あり物、をむや、宝殿の側、小預置た
る、夫、を琵琶の音、聞ゆ、度々、古より、名月、小
神調、通夜の人、聞、更あり、や、ふ、
宝殿、小入、琵琶を、検見せ、其、蓋、明、琵琶、見
る、夜、明、く、見、本、の、如、小、還、入、たり、や、
引、たり、仁、明天、皇、紀、に、兼、和、七、年、九、月、同、国、の、奏、言、小、賀
茂、郡、上、津、島、小、ま、阿、波、神、を、申、け、三、島、大、社、の、本、台、に、
御、子、物、忌、奈、命、ま、せ、り、
官、四、院、石、室、二、間、を、屋、二、間、間、室、十、三、基、を、造、り、陸、地、及、沙、濱
二、千、詩、早、を、作、り、成、り、給、ふ、の、幽、宮、の、状、を、其、形、微、妙、
名、け、た、
其、初、に、去、め、
中、より、焼、出、く、野、火、の、如、く、盛、り、成、り、島、の、左、右、海
現、出、く、火、を、取、り、海、小、下、り、火、を、附、り、
潮、を、ふ、じ、
地、上、の、如、く、地、小、入、り、水、小、入、り、
如、く、

大石を震い上げ、火もち、焼、推、き、
其、状、勝、騰、なり、火、燄、所、々、小、飛、く、灰、部、内、小、満、く、
十二日、
漸々、
院、岳、等、の、類、
神、異、
固、の、地、を、伊、豆、へ、取、来、給、る、
論、
出、
室、
奉、
寺、
給、
十、
醸、
此、
の、
中、
吾、
和、
大、
倉、
の、
長、

峽小坐ハ〜便ハ往來ユ船ヲ看ル者ヲ是レハ詔スるル也
 小御教ノまカく鎮ミまカく給ルるル也此ノ事ヲ風土記ニ載セるル也
オキ息長足比賣ノ天皇ノ御世ニ住吉ノ大神現れ出スるル也
 天下ヲ巡行シて住坐シるル國ヲ覓テ給ル時ニ沼名ノ掠ラるル也
 長岡ノ前ニ至リて斯ノ地ニ實ニ住スるル國ナリ也
 遂ニ讚ム稱スるル也真住吉ノ真住吉ノ國也宣ヒ中ノ爰ニ爰ニ
 小神社ヲ定メ給ヒぬ世ノ畧ス直ニ須美ノ殿ヲ云フ也
記ノ文ハ廿二社注式諸神記也ヲ考合せテ引クるル也
本注ノ今ノ神宮南邊是其ノ地ハ八ノ字ハ後人ノ竈入ナリ也
傳小ノ薄名倉大津ハ和名抄ニ同國鬼原郡住吉郷也
小今も住吉村ニ本住吉ノ神社也ナリ也
ノ古名ぬキらノ里ニ本住吉ノ神社也ナリ也
クなレむナリト撰津志ニ稱ス菟原住吉山路莊供其ノ祭祀也

御影社也ト稱ス生田社ノ東一里許道傍也ナリ也往來
 小ノ船ヲ看ル者ヲ行ハしテ天下ノ海上ヲ來通ス船ヲ悉ク護ル也
 待拒むル也ト異賊ノ船也ト來ル者ヲ聞クるル也
 上ノ件ノ四社也ト皇都小ノ近キ津國小ノ鎮坐りテ深
 録スるル也ト神名帳ニ同國住吉郡住吉坐神
 社四座并名神大月次相嘗新嘗中也ナリ也ト記傳小ノ仁德天皇
 御代頃ニ御託宣ス因テ右ノ菟原より遷されテ也
 論レたル也ト如シ四座也ト一官記ニ底筒男中筒男表筒
 男三座後加神功皇后四座也也ト釋紀ニ四座也稱ス也
 神功皇后別殿小ノ座也也ト有ル也ト廿二社註式ニ載セるル也
 中筒男表筒男一座也ト第四神功皇后也ト神別記ニ載セるル也
 偽書小ノ欺ム也ト由入江昌喜ガ辨ル也ト如シ
 御社ノ事ヲ畧抄出しテ天書ニ載すル也ト欽明天皇元年九月五
 日己卯難波小行幸六日庚辰祝津宮小進幸勅使ヲ遣はシて
 住江神ヲ祭ラせ給ひテ民小佐ム也ト給ル也ト各差別ニ
 初ニ新羅ヲ征け給ふル也ト天武天皇十三年乙酉天皇撰津國住吉
 社小行幸神田三十早ヲ御酒料小賜フ也ト此ノ夏今

本あり見えぬ。朱鳥元年七月、持統天皇六年の五月十
二月、また文武天皇、慶雲元年七月、聖武天皇七月、幣を
奉給ふや、御記に見え、天平神護四年、雅樂頭伊刀王を遣
し、神詔を受し給ふやあり、孝謙天皇の御疾、因
中、聞ゆ、桓武天皇紀、延暦三年六月、正三位住吉神に勲二
等を奉り給ひ、同十二月、從二位小進給ひ、同八年、天皇住
吉社、小行幸、帝王編年記、小住吉、日本紀畧、小大同元年
四月、丁巳、住吉大神、從一位を授奉らる、遣唐使の祈を以
て、三神、二十二年、小皆改造られ、常や成り、
その弊、少く、正殿の外、破り、小隨く修理を加ふ、
永く恒例やせむや申せ、請のまに許給ふやあり、
里、同三年、同八年、九月、嘉祥三年、貞觀元年、同九年、元
慶三年、ちやあり、神財幣帛を奉らる、由、御紀、小見え、昌泰
元年、十月、菅公の宇多上皇の御幸、小後、記、御記、小廿
八日、巳刻、上皇指、撰津、住吉濱、云、廿日、著江北、下船、騎馬、諸
住吉社、和歌云、やあり、由、扶桑畧記、小見え、東鑑、百鍊抄、保
曆間記、等、小後、鳥羽天皇、文治元年、二月、十九日、住吉社司の
言上、小去、十六日子刻、第三神、殿より、流鏑、小下、て、西方を、
飛出、や申せ、院御所より、御劔、已下の室物を、神

主長盛、小附く、獻給ふ、去の三月、平家滅びたり、帝王編年記
小、後深草天皇の正嘉二年、五月、四日、住吉第一神、殿鳴動、
く、拍犬形、地、小落、やあり、夏も見ゆ、あの大、神、八海上、へ更、
里、異國の夏に、與り、給ふ、神、小、ま、故、小、西土、へ、御使、賜、ふ、時
ハ、必奉幣、使を、遣さる、御祈あり、臨時祭式、小、開、遣唐、船、居、
祭、住吉社、云、右神、祇官、差使、向社、祭之、やあり、祝詞、式、小、
その祝詞を、載らる、皇御孫、尊の御命、も、住吉、小、辞、も、
奉る、皇神、等の前、小、申、給、も、大唐、小、使、遣、さ、む、
船、居、を、小、因、り、播磨、國、より、船、乘、り、使、遣、さ、む、念
ほ、り、問、小、皇神の御言、も、ち、船、居、ハ、吾、佐、む、教、悟、
給、ひ、き、云、云、此、祝詞、ハ、ソ、古、代、小、遣唐、使、あり、時、の、ち、
る、天、平、五、年、長、歌、を、以、に、考、合、り、上、小、出、せ、り、万葉集、を
ゆ、土、佐、日、記、小、枕、取、の、い、に、住吉の、荒人、神、船、小、
云、云、わ、れ、を、奉、り、給、を、や、り、云、小、後、ひ、に、奉、り、
有、り、と、始、り、源、氏、物、語、明、石、卷、等、も、大、神、の、海、上、を、守、り、給
ふ、由、書、々、り、皆、本、文、の、故、事、小、扱、り、世、間、も、か、く、言、傳
へ、た、れ、を、り、同、郡、小、船、玉、神、社、を、申、は、り、も、さ、り、を、續
紀、小、高、麗、國、へ、遣、さ、る、能、登、り、小、船、の、夏、を、幸、小、船、靈、小

頼云云やあり小考合せれば今俗の舟人等が舟玉様や
祭奉るも古き夏より大神御靈を申せりよがありなき
ゆへ古語拾遺小至饗余雅櫻朝住吉大神頭美やといひ且皇
代記皇代畧記なぞも住吉神頭形やありハ本文出せ
る古傳を指せりよ記傳も此時小実御形を現給ひけ
む由詠れりハ然る詠を因り按ふ小伊勢物語昔御
門住吉不行幸し給ひたり我見ても久くありぬ住吉の岸
の姫松いく代をぬらむむ神現形し給ひむつま
や君の知らぬやみづかきの久しき世よりいふ心あり
き頭昭古今秘注小在原業平の夏を聞て住吉小詣て
住吉の岸のひめ松人なむむ幾世を経ると同き物な
詠しよ若人の出衣だふ二つありせむ裸の山ふひや
へく休まし物を前なりハ古今集小收まり後なりハ新統
古今集小入たりを神明鏡小ハ神功皇后の御歌やなり右
等ハ元より造談なれども大神の思給ひしやハ故事小
因りける小ハ論を千載集小住吉社歌合小社頭
月と右大臣ふらふ松ののり藤原実定公なりハ古今
著聞集小歌を判者俊成卿殊小感し多世の人やハ譽
賀里ける程ふその比彼家領筑紫の瀬高庄の年貢積たり

々ハ船楫津国小漕入むやハ時悪風小逢ひくハ小海
小入らむやハ時翁一人出来く漕直し別夏をり
々ハ舟人恠思ふ程小翁のソひくハ松ののりハの御
句の面白く候く坊辺小住侍を翁の参候なりや申せ
やいひく失ふたり住吉大明神の彼歌を感て給ひ
御體を現し給ひたり小やあり小実御神小仕奉るハ神
等小があま多し千載集小同公大納言辭し申す出仕
に侍多し時住吉社の歌合やハ人々詠たり小述懐の歌や
詠侍りたり數ふればハやせ経小ありあまれ我が沈
しやハ昨日や思ふ小其後神感ありやハ小夢想あり
大納言小も還任し侍りたりやハ著聞集小ハ此を春
日社小詣るの夏やせりまハ訓抄袋草紙詞花集等小大
江攀周朝臣和泉の任たり後住吉の御崇小重く煩ひ
く限り小見えける時其母赤染衛門かむむ祈り命ハ
惜りくハ別れむあまを悲しきためみくハ久
かりぬ住りのまづあのだひの志しみせむ千やせ
よやまだ緑兒小あまよりた住吉の松を祈り色や三
首の歌も三本幣小書り彼社小奉るハ其夜夢小白髪
の若翁ありハ歌を取るを見り病愈ふりハ母下向
く悦びハ此様を語る小攀周ソみハ歎き我生たり

中も母を失ひ何のつはみるありむ且ハ不孝の身命
を思ひ住吉小請る白々母我小代り命終
べきなり速小元の如く我々命を召る母を助はせ給
や段々祈るれば神憐れ御助やあり多母共小事故
なく侍まをま真偽の知らぬや新古今集小住吉神御
歌や夜やはむまらるもやうのゆき合の
御門小申は給る御歌やなりまらるる年と經
ねる住の江の松が二度生ひかたりぬ此歌ハ或人の
住吉小請る人を同物住吉の松が二度生ひか
たらむを詠る奉る御返しやむる袋草紙も
詠宣御歌や住吉のきもせはむ物故ふねたや人
小松やゆれむをありかく国助神主の敷島の道守
了けり神と我が神垣やむるはあは詠り
大神と和歌の神や申し詠歌者ハ此大神の御眷属や成る
たや云詠も聞ゆるハ古詠ハあれど今按名蹟考小紀伊国
若浦なる玉津島神ハも神功皇后を祀れるなり住吉
社も第四社小皇后の坐すればまらるる若浦神や申
し多むる若中和歌や混ひ遂小住吉社と和歌神や言ひ
出さしや委し辨たりは有るなり右の混ひあり上

小の伊勢物語の説を附會し世小歌神や申し離
れよ成りなりを騷く世や成り其道
を好む人を守も助け給ひ御みづめ詠人小
示し給る為給ひむる是皇神等の神徳の无量不可思
議なりゆのゆく更小人間の敢る窺ひ奉る今際小非る
なりゆれや彼小歌道をの守給ふ神や思ふ詔ゆる山
の一草一木を指す山やソ井中お坐す天を小たりや
為る類小未きの知るその本を忘れたるゆの
住吉ハ風土記小あり如く古書ハス三ノエや訓小比
敷も日吉や書る遂小ヒヨシと詠りや同くス三ヨシ
ヤソいやををされやかくゆも古きあや小和
名抄も志訓古今集小あは知りたり人の住吉小
諸るる小詠る遣る壬生忠岑住よりや人をつくや
も永あはれ人まらる津のくふまらるの郡住より昔
男和泉国へのきり津のくふまらるの郡住よりの里
住吉の濱を行く小いやねる雁鳴ききくの花は秋
或人住吉の濱をよめらる小雁鳴ききくの花は秋
ハあれど春の海辺小住よりの濱をあれハなりは皇
典小他例小因ハ田蒙見宿禰を齋祭しむる文
の必ありなき小あはれ小脱たるも撰津志小境域東

西九界南北四界小祠三十餘。神人三百餘家。板屋。狛津守大宅。神奴大領高木。謂之神主七家。惟津守氏位其上。謂之社務。中津守氏小康平。中。国基神主。其子有基。景基。冒子。小經。国々々。言々。名高き人々の事。あけたる。尚御社の。あやふ付。言々。多々。廿二社説。鳥野信景説。和泉国大鳥郡。開口村。真住吉社。塩土翁。俗小三村大明神。神功皇后。韓征の時。導奉られ。故。以地小鎮祭。住吉の別宮。造管せ。同風土記の上小引たり。美奴。賣神。條。次。小還來。時。美奴賣神。此浦小祭。坐。御船を留。一の傳。小の船。鳴響。牛の吼。自然。小對馬海。還。坐。此地小到。動。ハト合。給。小神靈の欲。給。由。北。現。故。

小留。置。坐。万葉集。八千戈の神。御。ハ。国。百舟人の。定め。三。大。女。の。浦。の。詠。結。千載。集。小。鏡。み。ぬ。の。浦。の。名。の。同。影。を。撰。津。志。の。月。の。社。の。神。名。帳。小。八。部。郡。汶。賣。神。社。を。撰。津。志。小。在。菟。原。郡。岩。屋。村。今。称。三。社。与。大。石。味。泥。共。預。祭。祀。也。鐵。馬。浦。連。巨。八。部。郡。海。濱。上。古。潭。曰。敏。馬。や。あ。れ。後。小。菟。原。郡。小。隸。たり。後。御。船。の。平。々。海。を。渡。了。給。ひ。神。名。帳。標。注。小。同。国。西。生。郡。座。摩。神。社。を。神。功。皇。后。を。凱。旋。の。日。以。所。飲。食。給。ふ。俗。小。皇。后。憇。息。石。を。信。ら。れ。神。幸。の。地。小。鎮。坐。石。を。以。神。を。皇。后。申。信。ら。れ。後。社。小。傳。新。田。義。貞。朝。臣。元。弘。三。年。小。奉。ら。れ。願。文。小。座。摩。太。神。宮。者。云。云。日。本。之。靈。神。也。助。神。功。皇。后。照。神。成。於。萬。里。之。海。上。楠。正。成。卿。の。同。年。願。文。小。夫。以。座。摩。之。神。者。神。功。皇。后。護。身。而。百。王。鎮。護。之。靈。神。也。を。見。え。皇。后。小。縁。中。御。社。を。聞。ゆ。れ。御。船。の。舳。の。著。一。所。を。舳。の。甲。を。好。古。云。其。の。時。御。船。の。舳。の。著。一。所。を。舳。の。甲。を。

泉州堺邑あり、兼邦百首注し記せし。新羅王が奉
り八十艘の貢船も、境浦につきぬ。故に昔の境を八十浦や
韓凱旋繫九艦於此岸松樹、固有袖松九艘小路等名。
時、忍熊王軍をたし、五十狹茅を將軍せし。喪船小向
ひく空船を攻給し、時御方小丸迹臣の祖難波
根子建振熊命を將軍や爲し、その喪船も軍を下し、
相戦せ給し、小遂ふ打勝り、故忍熊王の軍を引く。
山代國菟道の里まぐ退れし、御軍おひひく相戦ひ
多し。建振熊命ハ、韓國小將軍や、留置給し、大矢田宿
禰の父や、これより百七十年、仁徳天皇六十
二年、見え給し、武く壽き人たり、上り、
累の如く、表船の事ハ、記紀水炭相反せ、傳の如く、
記ハ、表船の事ハ、密小紀伊國へ幸せ、夏を漏
し、紀ハ、紀國へ幸せ、夏を漏し、奇兵や給し。

表船の夏を漏し、何れも正き傳なり、忍熊王の、かく
速小破れし、皇神の稜威の、なる、の、弟考
王も勢を合せ、攻られ、故に、なる、東平説も、
と、委し、御方や、御祖命ハ、まれ、南の方紀伊
称あり、初に見えし、和泉志、日根郡、波太神社の、下、縁起を引く、相
國小幸し、殿小坐し、八幡宮の、源起ハ、神功皇后、征新羅、歸
時、後務古、永門、詣紀伊國、繫御船、于鳥取、玉津、武内、宿禰、懷皇
子、遊海岸、後、其地、建社、祭之、今、貝掛、邑、指出、森、其地也、ま、波
太、宮、鳥取、氏、祖、神、角、禰、命也、未、社、日高、宮、御子命、小會
有、天、湯、河、板、攀、之、社、也、日高、宮、御子命、小會
奉、了、群、臣、を、集、忍、熊、王、を、伐、む、を、謀、給、し、日
宮ハ、紀伊國、日高、小竹宮、小遷、了、和泉志、小
郡、小あり、小竹宮、小遷、了、和泉志、小
尾井村、あ、の時、も、晝暗き、夜、の、如く、多日、を、經、ぬ、御
実、命、紀直、の、祖、豐耳、を、召、す、あ、の、怪、あ、や、問、せ